

学校の教育活動から

○盛り上がった「ハッピーコンサート！」

“♪さあ始めよう さあ始めよう 楽しいぼくらのコンサート♪…”

全校のみんなの「はじめよう コンサート」の歌声で幕が開いた「ハッピーコンサート！」。32組の子どもたちが歌や演奏、ダンスなどで、思いっきり自分なりの音楽を表現をしました。生き生きとした子ども達の姿、笑顔でお友だちの発表を応援する子ども達、保護者の皆様の温かな目線、会場全体に響く手拍子、発表を終えて安堵と充実感にあふれた子ども達の表情…全てが素晴らしい時間でした！ 子どもたちと保護者の皆様、教職員でこの時間を共有できたことが嬉しくてなりませんでした！保護者の皆様も同様にお感じいただけていたのなら嬉しく思います。



改めてですが、コンサート当日のご参観、そして温かな拍手、本当にありがとうございました！

感じたことから

○表現することの楽しさ！

前回の「校長室だより」(NO9)では、子どもたちと一緒にサッカーをする中で感じた“みんなと一緒に体を動かすことの楽しさ”、図工の時間に熱心に取り組む子ども達の姿を見て感じた“集中して学ぶことの楽しさ”について思ったことを書かせていただきました。



さらに、今回の子ども達の「ハッピーコンサート」を観させてもらう中で、改めて大切な楽しさがあることを再認識しました。それは“表現することの楽しさ”です。出演したどの子ども達も全校のみんな、たくさんの保護者の皆様、全教職員、を見渡せるステージでの発表は、心臓のドキドキが高鳴りこの上ない緊張を味わったことでしょうか。ただ、その中で、自分なりの演奏や歌声、ダンスで表現し、観賞していた

だいた方々から心温まる拍手をいただけたことは、心からの安堵と喜び、そして極上の楽しさを感じた貴重な経験になったことでしょう。

アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクト著の「菊と刀」の中で、日本人の特質として「恥の文化」が挙げられています。日本人は得てしまわりから自分はどう見られているかが気になり、他者と違う行動を「恥ずかしいこと」として避け、集団に埋没してしまう傾向があるそうです。ですから、自分なりの良さを発揮できる場にも、一歩踏み出すことに躊躇しがちです。それは、周り「違うこと」を、それこそ周りから、こそこそと非難されるのではないかという心配や不安が心の中で膨らんでしまうからです。

しかし、今回の「ハッピーコンサート」は違いました。たくさんの出演者が、音楽に関する発表の場を自らの意志で希望し、緊張感の中、堂々と表現できていました。そこに「恥の文化」はありません。それは、自らの「音楽表現」を周囲の方々が応援し、認めてくださるに違いないという関係性による安心感があったからに他ならないと思います。



今回の子ども達の表現は、音楽に関するものでしたが、一人一人によって表現したいものは違ってくるでしょう。運動の技能や体力で表現したい人、学習時間の発表や作文等で表現したい人、絵の描写での表現、自分の心の中にある優しさを行動で表現…、こうした様々な表現を周りが認め、尊重することができる関係性が築かれている集団ならば、自分らしさの表現はこの上ない楽しさとなって、子ども達の心に幸せをもたらすことでしょう。